

# 伝説と棚田の里 内成

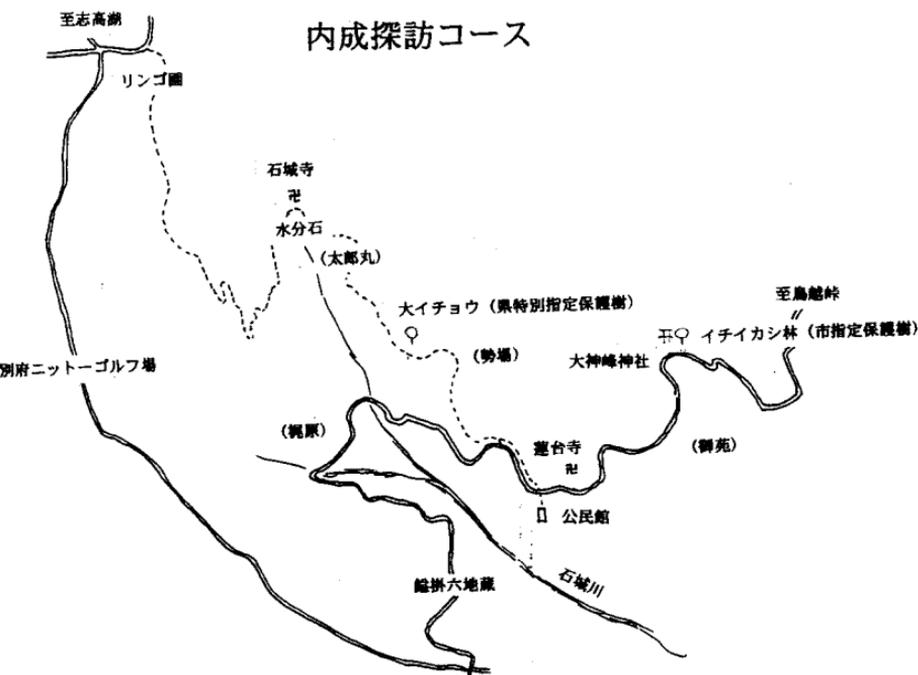
## 内成の歴史

内成は石城川に沿った山村で、御苑・中迫・勢場・太郎丸・梶原・岩永・鎰掛・下畑・仁田原・ウト等の集落があります。

昔は、大分郡笠和郷に属していました。鎌倉時代で来た弘安図田帳には、「…内梨畑、大略畑地のため地代明らかならず、地頭相模四郎左近大夫殿…」と記録されています。相模四郎左近大夫が地頭であった鎌倉時代から室町時代には、いまのようにきれいな棚田はなかったのでしょうか。

この時代に、蓮台寺、善光寺、東蓮寺、石城寺、大應寺、極楽寺等の寺院がたてられました。が天正年間(戦国時代)北朝方の大友氏と攻め込んできた南朝方の菊池

内成探訪コース



氏の戦いで、ほとんどが兵火にあったそうです。勢場の田圃のわきに、善光寺の跡の石塔が残っています。

その後も棚田の開発が進み、江戸時代の正保四年（一六四七）の郷帳には、「高四百九拾式石四斗七升三合

日根野織部正領分、笠和郷内成村 山木あり」とかかれてあり、元禄時代には「：松平津島守知行 内成村」となり、その後も代々府内藩の領地となりました。

府内藩は領主が度々替わり、その度に内成村では棚田の開発が進んだのでしょう、天保五年の郷帳をみると、内成村の石高が正保の頃より百式石五斗七升ふえています。

内成村で、江戸時代の産業として特にあげられるものは、府内藩の七島蘭の栽培です。府内に生まれた橋本五郎右衛門が薩摩の七島から密かに苗をもち帰り、寛文三年（一六六三）に苦勞の末に初めて内成で試作に成功しました。（三三三年前）

また、江戸時代の初めに内成を通して、大分郡の庄内や挟間の方から、キリシタンの信仰が別府に入ってきました。鎰掛の「キリシタン塔」と同じ型式のものが、隠

山、鳥越、朝見、南石垣で見られます。

明治時代になり、内成村は、宮苑・高崎・七蔵司・来鉢・田代村とともに第三大区廿二小区となり、やがて石城川村となりました。

昭和二九年に石城川村は挟間村に合併されましたが、昭和三十一年四月一日に内成全域が挟間町とはなれて別府市に編入されました。

### 石城寺 臨濟宗

本尊は十一面観音、縁起によると、光仁天皇（奈良時代）の時代に入船屋敷に住む老夫婦が飲料水不足に困っていたので、仁聞菩薩が杖で岩根を穿って清水を湧き出させたという。

本尊の十一面観音は、仁聞菩薩がこの地域の人々を救うために彫ったものといわれています。

境内の庭園は荒れてはいますが、巨岩を配したなかなか趣のある回遊式庭園です。ここには、無銘ですが室町時代の作と思われる宝篋印塔があります。



石 城 寺

梨洞山石城寺略縁起 (明和七年仏海和尚)

そもそも、豊府城の西内成村梨洞山石城寺の由来を尋ぬるに、往昔、人皇四十九代光仁天皇の御宇、仁聞菩薩出現あらせたまい、是れより八丁麓に入船屋敷という処ありて老人夫婦住みけりしが、すなはち菩薩御来光ありしとき忽ち紫雲靨震動すれば、両人の者とも死に在る心地して臥せ居るに、ややありて静かに成りける故頭を挙げれば、厳然と尊僧ましまし、「我こと故ありてこの家に来る しばしの間とどまるべし」との御仰せ、「御宿の儀最も安き事ながら 此処は殊の外水に不自由仕り 我々を始めとし村の者とも此処より南にあたり式拾五丁程隔てて深き谷川より 朝には頭にかつぎ 夕べには牛馬におぶせて持運ぶ 右体不自由の事なれば御足を洗う御湯とて奉ることも叶うまじ 是れは如何なる因縁なるぞ」と涙を流して歎きければ、菩薩もろとも歎かせたまい「我衆生を助けんとて、早天壺丁程北に登らせたまい、杖を以て穿ちたまい用水をあたえたまい、水の出口の上に大石あれば菩薩石の平らをつきほがせけるに、たちまち水しみで

るなり。是れを脱落とし水と号るとて、菩薩右の屋敷にお帰りあり。入船屋敷と御申すとは、仁聞菩薩御一宿ありしことを以て御申とは申伝なり。仁聞大菩薩それより当山に登らせたまひ、大石の上にて三七日ケ間座禪行をならしめ、満する朝東の空に御声高く、「万

民を救わんため 唐土龍門カ滝四十八口の内一口この地に与うべし」とて紫雲鬘鬘然と尊僧ましまし、すなはち十一面観音菩薩の尊体を現したまう。仁聞菩薩香木を以て尊形を写し刻ませたまえば、尊体虚空に消失いけり。時に仁聞菩薩麓に下りありて、手杖を以てつきになり石の根を撃ちたまえばたちまち水湧き出、爰にも其処にも彼方にも鳴瀬谷々鳴渡りて流出絶え間なければ、所の者とも大に驚き、不思議なる御僧かなとて頭を地に臥せ感じ入り喜悦限りもなかりければ、菩薩亦々仰せには「以後に七つの妙あらん、これまた衆生を助けんがため、この水は唐土龍門カ滝四十八口の内壱口この地に与うべし」とて、観世音菩薩御仰せなれば、この水戴くときは、南無大慈大悲の観世音菩薩と唱え飲めば、悪事災難万病を遁るるなりと仰せけ

り。虚空をさして失せさせたまう。当所内成とは、唐土龍門カ滝四十八口の内成りと申すなり。

#### 七不思議事

一には 水の出口に虚空より大石落ち 両川にせき分る事。

二には 龍門カ滝に表わし四十八本の井をほり下に流るる程いみる事。

三には ヒルの虫人にすい付事なし。

四には 川の者(河童)人をとらざる事。

五には 婦人懐胎の時身を分けずして死する事なし。

六には 火難の時類火なし 一軒火事と申し伝う。

七には 青梅年中あり。

この事は天下無双の不思議なり。

一、境内八丁四方本堂より西北に当たり、カラ滝・ゴゼ

か谷・天狗岩・畳石・柱岩・八杖岩・座禪石・天狗

羽休々 如此略縁起(略縁起かくの如し)

#### 宝篋印塔

「宝篋印陀羅尼經」を納めた供養塔を宝篋印塔と呼びます。石造は鎌倉中期から造立されました。基本的には

基壇上に、基礎・塔身・笠・相輪をつみあげ、塔身の四面に梵字を彫る。

鎌倉時代 隅飾突起(馬の耳)が直立。

南北朝時代 隅飾突起がやや反る。相輪が不安定になり伏鉢が大きくなる。

室町時代 隅飾突起の反りが進み、伏鉢がますます大きくなる。

江戸時代 隅飾突起が反りかえり開いている。請

花・伏鉢は彫刻過剰。宝珠がとがり、九輪は皿を重ねた程度である。

## 水分石のこと

旧参道に沿った石の階段を下りてやがてに曲がると、大石の下から水が湧きだして二手に分かれて流れ下る豊かな水源があります。里人はこの大石が水の流れを左右等量に分けているので、「水分石」と呼びならわしています。

一説には、里人の水争いが激しくなり、寺も仲裁に困っていたとき、天上より大石が落ちてきて水を分けたので、

菩薩の靈験に恐れて水争いがおさまったといわれます。

これは、田にかかる貴重な水の水利権を石城寺が握っていた事をしめすための伝承でしょう。現にこの湧き水を灌漑に利用する太郎丸・勢場・御苑・梶原地区は、毎年寺に米を奉納する習わしが残っているそうです。

この水は、石城川の水源になってやがて大分川に注いでいます。

## 勢場の大きいチョウ

(県特別保護樹)

仁聞菩薩お手植えのイチョウと伝えられています。

目廻り約一〇m、樹高約三〇mの大樹である。今は樹の元に薬師堂があるが、かつて根元の窪みに安置していた薬師如来を、いつの間にか樹肉に巻き込んでしまったといわれる生命力の強い巨木です。

また、このイチョウは授乳の靈験をもつ靈樹で、乳の少ない婦人は、薬師如来に祈って幹にできた乳房のような瘤を吸ったり、削ってもち帰り煎じて飲むとよいといわれます。幹に削ったあとが残っています。



## 大神峰神社

(イチイカシ林 別府市指定保護樹)

祭神は大山祇命と八幡神。元慶元年(八七七一平安時代)大神比義の子孫である大神国道が八幡神を勧請しました。かつて大神峰神社は宇佐神宮と同じように連台寺を神宮寺とすて神仏混淆の神社だったようです。

境内には、宝永七年(一七一〇)と享保十九年(一七三四)に寄進された灯籠や、古式の鳥居があります。

この神社を取り巻く常緑樹の林には、イチイカシの巨木があります。イチイカシは低地の代表的な自然林で、早くから伐採されていたために残っている林はすくないようです。しかし、大神峰神社の神域のイチイカシは境内林として保護されてきました。別府市では保護樹に指定して保護しています。

## 鑑掛の六地藏石幢

六地藏信仰

六地藏とは、辻、墓地の入口、寺の入口に立つ六体の地藏をいいます。『地藏本願経』によれば「六道の衆生を度脱せしめん」「六道の一切衆生を教化し」とあります。六道とは天・人・修羅・畜生・餓鬼・地獄の六つで生き者はこの六つ世界を輪廻しているとされます。その六道の入口にそれぞれ地藏があり、次の世にどこに生まれかわっても救ってもらえるという信仰です。

六地藏石幢は、笠のある六角柱(石幢)の上部に六つの地藏を示す梵字か地藏像を彫りこんだものです。

鑑掛の六地藏石幢は、八角形の石幢に(高さ二、四八



鎚掛薬師堂石幢

米)六地藏を彫りこんだもので、十王らしい像の二体が加えられています。

台には

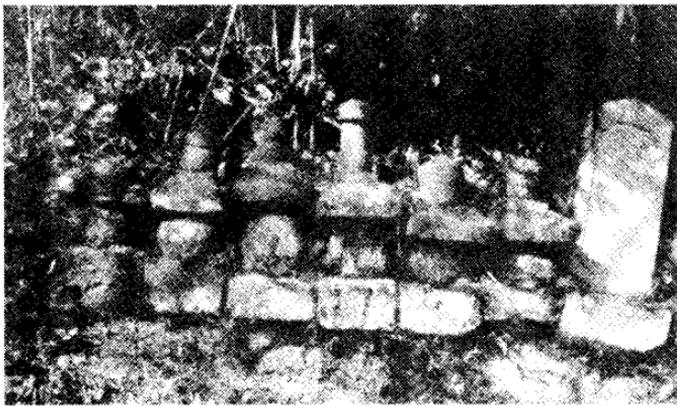
功德主 鎚掛村信男女中

延命地藏菩薩經石書之塔

元文四巳未三月廿四日

六地藏石幢は、鎚掛上の詰めに抜ける旧道の三叉路、梶原地区の三叉路、下畑(解体されている)の四基が確認されています。いずれも地藏尊の陽刻が端麗です。

## 鎚掛キリシタン塔



鎚掛キリシタン墓

鎚掛薬師堂左の崖の上に五輪塔型式四基、宝塔型式二基の石塔が並んでいます。

左より二つ目にある宝塔型式の石塔は、塔身上部に頸部をもち、笠の正面の中央部に線彫クルスが陰刻されています。

は塔身が方形で、各面に仏像を陽刻してありますが、相輪部はキリシタン塔独特の九輪の刻みを省略したものです。